

特集

# 思いをカタチにする

人はさまざまな思いを抱えながら暮らしています。この地に魅力を感じて移り住み、人との出会いや交流によって夢の実現を実現する人、生まれ育った町だからこそ地域にあるものを生かしたいと取り組んでいる人たちをご紹介します。

もったいない・ありがたい・おかげさまの精神で



それぞれの「大好き」が見つかる

廃校となった小屋瀬小中学校上外川分校の校舎が、エコスクール「森と風のがっこう」として生まれ変わってからは、今年で七年目を迎えるようになっています。活動の広がりとともに「森風ファン」は年々増え続け、町内外から年間三千人もの人たちが訪れるようになりました。

「過去にかかわった人々の汗や、涙や、喜びが染み付いている校舎を再利用して新たな広場を創り出したい」平成十三年七月、森と風の

がっこうを運営する岩手子ども環境研究所(吉成信夫代表)は、①自然エネルギーの活用②廃校の再利用③子ども居場所づくりを柱に据え、活動を開始しました。「もったいない・ありがたい・おかげさま」という日本古来の考え方を活動理念に、自然エネルギーを取り入れた循環型の生活スタイルを、身の丈に合った大きさで、体験を通して、楽しみながら学ぶ活動、施設づくりを進めています。

子ども居場所づくりとして、平成十四年から月一回(冬場を除く)開催している「子どもオープンデー」は、毎回定員を超える人気ぶり。学生や社会人ボランティアが「遊び仲間」となり、子どもたちは目いっぱい五感を働かせて、遊びの中からいろいろなことを学んでいます。太陽光発電をはじめ、施設の内外に設置した自然エネルギー利用の設備は、スタッフや多くのボランティアが丁寧に作り上げたものです。



エコロジカルなこだわりの設備

空き缶風呂

空き缶を大量に利用した浴槽(製作過程)

おがくすなどを入れ、人の排せつ物の発酵を促すトイレ

コンポストトイレ

排せつ物や残飯を入れ、メタンガスと液肥を取り出す装置

バイオガス装置



## 森と風のがっこう

右から、カフェ店長の吉成百合さん、宮沢賢治を敬愛する代表の吉成信夫さん、企画・実務全般をこなす森原豊さん

地域の暮らしに学びながら  
これまでにないエコビレッジを創り出したい。

### 過去と未来をつなぐ取り組み

昨年の夏に続き、三月二十八日から三十一日まで小中学生を対象に「くずまき・自然エネルギーSpringスクール」が開催されます。

森と風のがっこうは、子どもだけのフリースクールではありません。大人向けでは、地域の食材を見直す「食の寺子屋講座」や岩手県北の伝統的な暮らしに触れる「北いわてのスローツアー」「自然エネルギーがっこう」の企画運営などを行っています。

今年も、オープンキッチンづくりのワークショップも行う予定です。現在、手掛けているのは、葛巻の伝統料理と食にまつわる話を紹介する

「地域の伝統食をいかした子どもの食育実践」森と風のハンドブック①②の編集。子どもオープンデーなどの参加協力で交流が続いている町婦人連絡協議会やふれあい教室、小田老人クラブの方々が料理などを紹介しているもので、今月中に発刊される予定です。

吉成信夫さん(50)は「子どもオープンデーが地域と森風をつないでくれました。出会った方々とのご縁はつきまわっていますよ」と笑います。

食文化の記録に携わる吉成百合さん(50)は「お年寄りの話は本当におもしろい。昔の生活や知恵に学ぶことがたくさんあります」と、さらに続編を検討しています。企画全般を担当している森原豊さん(29)は「葛巻にはおばあちゃんたちの技がたくさん眠っているように思います。高齢化が進むなど個々の地域では解決の難しい課題を外の人とつなぐ中で、解決の糸口を見つけていきたい」と



●子どもオープンデー  
婦人会の皆さんと一緒に「創作もちコンクール」に挑戦!



●北いわてのスローツアー(春)  
山菜採りは地元の山中ハルさんが案内役。食の匠が山菜の食べ方を伝授



●自然エネルギースクール  
小型水力発電で自分たちが必要なエネルギーを創り出す

CAFE森風



地域の素材や廃品にこだわって創作されたカフェは、町内外の人たちと出会うコミュニティの場